

## 国語科通信 その17

令和2年5月18日

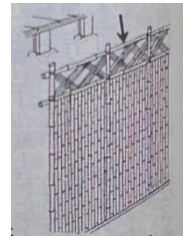
### ●『和泉式部日記』ポイント解説最終～「<sup>けしき</sup>気色<sup>こどねりわらわ</sup>ばむ」小舎人童～

①まずは、これまで何回かに分けてお話した『和泉式部日記』のポイントのおさらいです。

#### ②国語科通信その3

- ・「人は目を…」の係助詞「は」に注目し、主語「私」を補う。対比。
- ・冒頭…「季節の移ろい」と「心情の変化（喪失感→恋の予感）」

最重要心情語「あはれ」



すいがい  
透垣

#### ③国語科通信その9

- ・恋における「和歌の役割」 歌詠みの名手=恋の達人
- ・和歌が詠まれる状況設定

和歌 = もの(目の前の自然など) + 人の心

- ・和歌の前を丁寧にたどると道が開ける。

#### ④国語科通信その11

- ・「ほととぎす」にみる伝統的世界、「ほととぎす」を好む日本人
- ・「花(橘の花)」と「鳥(ほととぎす)」に託されたものとは

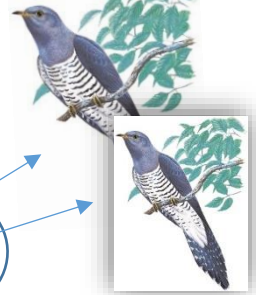
橘の花=誰を暗示?( )



ミカン科。とってもよい香り(芳香)。  
柑橘系(シトラス系)の香り。  
ミカンの花も丁度今が盛りとか。

ほととぎす  
時鳥 二羽?

テッペンカケタカ



敦道親王からプレゼント

まだ忘れられないか?

橘の花のことを忘れたわけ  
ではないの…でも、ほととぎす  
のお声も聞いてみたいの。  
( )と同じ声かどうか  
確かめたくて

・和歌の贈答=和泉式部と敦道親王との恋の駆け引き

## ⑤その12

・「~な人」にみられる「女流日記文学」の語り方

自己を「~な人」と表現→自己の客観化→日記だが物語的

・ためらいつつも新しい恋に一步を踏み出す和泉式部

以上がおさらい、これからが、今日の本題です。

## ⑥「小舎人童(こどねりわらわ)」は恋の仲介人(メッセンジャーボーイ)

・「小舎人童」とは貴人に仕える少年のことです。恋人を失い  
悲しみに沈んでいるところへ、亡き恋人(為尊親王)付だった  
少年が現れます。何用できたのでしょうか。

⑦電話もメールもない、ポストも郵便配達人もいない当時、人と人を繋ぐのは「人」です。特に、「和歌」をなかだち媒として進展する「恋」においては、その「和歌(文=手紙)」をいちいち届ける人間がいなくてはどうにもなりません。

⑧相手の気持ちを読み取り、機転を利かせて「行ったり来たり」する、気の利く「メッセンジャーボーイ」の存在も古文の読解では見逃すことはできません。

⑨亡きためたか為尊親王(故宮)の弟宮「敦道親王」は、この小舎人童に、「(兄宮の恋人であった)和泉の家に、(兄宮亡き後も)いつも行っているのか」と尋ねます。露骨ではなく、遠回しな物言い

⑩気の利くこの小舎人童は、『(ははーん。)敦道親王(=そちのみや帥宮)様は、和泉に興味をお持ちでは…』と察しをつけ、敦道親王からの贈り物(これが一種のなぞかけです)を携え、和泉のところへやってきます。ここは授業で!

とはどこにも書いてないですが、文脈を読むとこうなります

⑪和泉からの返事(例の「ほととぎす」の歌です!)を受け取った童は、敦道親王のもとへ届けます。さてその場面です。

⑫本文は、「まだ端におはしましけるに、この童隠れの方に気色

ばみけるけはひをご覧じつけて」です。注目単語「気色ばむ」

⑬「<sup>けしき</sup>気色」は、「視覚によって外見から直接的にとらえられる人やものの様子」、「けはひ」は、「音やにおいなどによって間接的にとらえられる人やものの様子。雰囲気。」のことで

⑭…とすると、ここでは、童は具体的にどのようなことをしたの  
でしょう。ヒントは、直前の「隠れの方(物陰)」です。

⑮一方の敦道親王もとても面白いです。「まだ端におはしまして」  
とありますが、「まだとはいつから「まだ」なのでしょう。

⑯なぜ、「(屋敷の)端」に「おはしまして(いらっしゃって)」  
のでしょう。ここから、親王の※立場や心情がうかがえます。

直接心情は書いてないが、行動は書いてある。これは立派な「心情表現」です!

※「親王」とは、帝の子どもを言います。高貴な方々の中でも別格の高貴な方です。

⑰さらに面白いのは、和泉式部が自分で目にしたことを書く日  
記のはずなのに、ここでは、書き手の和泉がまるで見てきたか  
のように敦道親王のお屋敷の様子を描写しています。想像して  
いるわけですね。このあたりの描写から、  
『和泉式部物語』とも呼ばれたりします。ここもポイントです

⑱「古文」の学習は、文法や単語だけでなく、背景となる古典世

界の常識や、物語としての人間の行動や心情を捉えるところまで求められます。小説が苦手な人は、恐らくこのような古文の読解も苦手だと思います。「なぜそうしたのか、なぜそう言ったのか」ということを常に考える習慣が実力を高めていきます。

⑱『和泉式部日記』では、上述のような「読解」のポイントをおさえながら、敬語の正しい訳出、特に謙譲の「たまふ」を新規に学習しますので、予習をすすめておきましょう。

⑳さて、和泉式部はこの出会いの時、二十六歳位、一方の敦道親王は二十三歳で、和泉の方が年上だったようです。

㉑朝ドラの『エール』では、文通から恋が実ります。時代は昭和5年（1930年）頃です。手紙をめっきり書かなくなった現代人にとって、この文通による恋の成就是信じられないような展開かもしれませんが、「今か今か…」と待ちわび恋い焦がれる状況は、きっと悪いものではないのだろうと画面から目が離せません。